



# 教授 赤木 範陸

アカギ ノリミチ



教育人間科学部 学校教育課程・美術教育講座  
大学院教育学研究科 芸術系教育専攻  
大学院教育学研究科 教育実践専攻  
akagi@ynu.ac.jp  
<http://www.akagi.de/>

## 絵画技術

古代及び古典絵画技法

エンカウスティーク  
フレスコ・テンペラ  
金箔地処方  
エマルジョン技術  
油彩テンペラメディウム

### 【研究概要】

これまで古代絵画技術であるエンカウスティーク及び、テンペラやフレスコなど中世からルネッサンス期に完成したヨーロッパ古典絵画技法を中心に絵画技術全般を研究してきました。エンカウスティーク技法は既に伝承が失われた2000年前の古代の絵画技法であり、その描画法は未だ謎めいていますが、私の研究はそれらの過去の謎解きではなく、当時の技術の再現でもありません。古い技術には長い時間により証明された保証があり、この古い技術の骨子を残して現代に通用するコンセプトにより肉付けをすることで新しい絵画技術として完成させることが一つの目的ですが、それには材料と表現の双方の側面からの研究が必要になります。ここでは絵画材料に於ける側面の研究をご紹介します。

### 【アドバンテージ】

近年はテンペラエマルジョンの改質を研究しています。この研究によるテンペラエマルジョンはヨーロッパ中世より存在するテンペラグラッサの変成型メディウムです。O/W型エマルジョン理論により、市販の油絵の具にこれを混合すると中世の脂肪テンペラに変成させる技術(油彩テンペラメディウムの開発)に成功しました。これは油性溶剤にしか溶けない油絵具を水溶性のテンペラ絵具に変え、水で希釈して使用できるメディウムで、日本には他にありません。これにより画家は1本の油絵具を片手に本来の油絵具として、もう片方の手にはそれをテンペラ絵具として持ち替えて制作できるのです。このメディウムを顔料と混ぜて使用すれば中世の卵黄テンペラとして単独でも混合技法にも描画が可能です。

### 【事例紹介】

上記の「油彩テンペラメディウム」の研究は2012年2月に

試作製品化しました。右図は工業生産化された油性テンペラメディウムがチューブ詰めされている段階の写真です。

このメディウムは技術的にはほぼ完成していますが製品化を考慮した場合、長期保存の保証が必要ですので、現在、常温及び冷蔵に於ける耐久性の検査とともに、他の研究者にも提供し、使用に際しての問題点などについて洗い出しの過程上にあります。



### ■ 相談に応じられるテーマ

古代・中世・ルネッサンス及び、近世に於ける絵画技術及び、材料

### ■ 主な所属学会

日本美術家連盟  
IAA、UNESCO 国際美術連盟  
大学美術教育学会

### ■ 主な特許

「油性テンペラメディウム」特許申請予定

### ■ 主な論文

1. 『チェンニーノ・チェンニーニによる金地背景及びテンペラ画の処方-使用可能な現代的処方へ-』  
(横浜国立大学紀要2007/2)
2. 『チェンニーノ・チェンニーニによる金地背景及びテンペラ画の処方-鍍金から卵黄テンペラへ-』

(横浜国立大学紀要2008/2)

3. 『チェンニーノ・チェンニーニによる金地背景及びテンペラ画の処方-使用可能な現代的処方へII』

(横浜国立大学紀要2009/2)

4. 『プロセスによる絵画制作(混合技法)に関する一考察』

(横浜国立大学紀要2010/2)

5. 『油彩画の基礎技法としてのグリザイユ技法』

(横浜国立大学紀要2011/2)

6. 『転写素描上に於ける透明水彩の方法』

(横浜国立大学紀要2013/2)

### ■ 主な著書

1. 「由布院美術館開館記念赤木範陸展図録」1991/8
2. 絵画集「NORIMICHI AKAGI / 1991-1995」2001/6
3. 『AKAGI NORIMICHI - 錬金術師の軌跡 -』図録 2001/11
4. 『NORIMICHI AKAGI - 湯浴み -』図録 2002/9
5. 「赤木範陸展、濡れ色の神秘- ENKAUSTIK-」図録 2012/9